



令和4年7月分 清水税関支署管内 貿易概況（速報）の要旨

1. 清水港

輸出総額は2,018億円（対前年同月比11.9%の増加、比率ベース：2カ月連続の増加）、輸入総額は1,121億円（同15.8%の増加、18カ月連続の増加）であった。差引額は897億円（同7.4%の増加）の輸出超過で、4カ月ぶりの増加となった。

品目別では、輸出は「自動車の部分品」、「自転車及び同部分品」などは減少したものの、「原動機」、「二輪自動車類」、「加熱用・冷却用機器」などが増加した。

輸入は「金属鉱及びくず」、「大豆」などは減少したものの、「魚介類及び同調製品」、「無機化合物」、「有機化合物」などが増加した。

地域別では、輸出は「アメリカ」、「EU」が増加、「アジア」は減少した。輸入は「アジア」、「アメリカ」、「EU」が増加した。

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額（▲は輸入超過）	伸率
清水港	2,018億円	+11.9%	1,121億円	+15.8%	897億円	+7.4%
	2カ月連続の増加		18カ月連続の増加			

概況品名			金額	伸率	概況品名			金額	伸率	
輸出	増加品目	(1) 原動機	312億円	+49.3%	輸入	増加品目	(1) 魚介類及び同調製品	151億円	+24.3%	
		(2) 二輪自動車類	174億円	+71.5%			(2) 無機化合物	24億円	13倍	
		(3) 加熱用・冷却用機器	91億円	+80.1%			(3) 有機化合物	59億円	+45.0%	
	減少品目	(1) 自動車の部分品	142億円	▲14.3%		減少品目	(1) 金属鉱及びくず	3億円	▲95.0%	
		(2) 自転車及び同部分品	0.5億円	▲96.0%			(2) 大豆	18億円	▲40.4%	
		(3) 無機化合物	18億円	▲38.7%			(3) 液化天然ガス	64億円	▲9.8%	
	主要地域 増減	アメリカ、EUが増加、アジアは減少				主要地域 増減	アジア、アメリカ、EUが増加			

（参考）ドルレートは、136.05円（前年同月比23.1%、25.5円の円安）であった。

（注）月間ドルレートは、税関長が公示する相場を当該相場が適用された日数で加重平均したもの。

注）本資料中の「伸率」及び「増減表記」は、前年同期との比較による。

2. 田子の浦港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額(▲は輸入超過)	伸率
田子の浦港	5億円	▲51.0%	61億円	2.0倍	▲56億円	2.8倍
	2カ月ぶりの減少		2カ月連続の増加			

			概況品名	金額	伸率				概況品名	金額	伸率		
輸出	増加品目	(1)	写真用・映画用材料	262百万円	+29.6%	輸入	増加品目	(1)	石炭	2,472百万円	3.3倍		
		(2)	金属製品	14百万円	2.1倍			(2)	とうもろこし	2,376百万円	+28.2%		
		(3)	プラスチック	17百万円	+48.6%			(3)	有機化合物	403百万円	全増		
	減少品目	(1)	電気計測機器	—	全減		減少品目	(1)	非金属鉱物製品	—	全減		
		(2)	ポンプ及び遠心分離機	—	全減			(2)	パルプ	199百万円	▲14.1%		
		(3)	自動車用等の電気機器	—	全減			(3)	バッグ類	—	全減		
	主要地域	増減	アジア、アメリカが減少、EUは増加					主要地域	アジア、アメリカ、EUが増加				

3. 御前崎港

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額(▲は輸入超過)	伸率
御前崎港	272億円	▲20.3%	26億円	+36.0%	246億円	▲23.6%
	2カ月ぶりの減少		2カ月ぶりの増加			

			概況品名	金額	伸率				概況品名	金額	伸率	
輸出	増加品目	(1)	自動車	11,620百万円	+8.4%	輸入	増加品目	(1)	鉄鋼	1,072百万円	+34.8%	
		(2)	運動用具	842百万円	3.5倍			(2)	金属製品	149百万円	14倍	
		(3)	楽器	2,897百万円	+12.3%			(3)	調製石油添加剤	485百万円	+37.8%	
	減少品目	(1)	自動車の部分品	4,134百万円	▲32.5%		減少品目	(1)	お茶	—	全減	
		(2)	無機化合物	1,337百万円	▲51.7%			(2)	二輪自動車類	—	全減	
		(3)	電池	36百万円	▲93.3%			(3)	精油・香料及び化粧品類	5百万円	▲14.1%	
	主要地域	増減	EU、アジアが減少、アメリカは増加					アジア、EU、アメリカが増加				

4. 静岡空港

輸出入実績なし